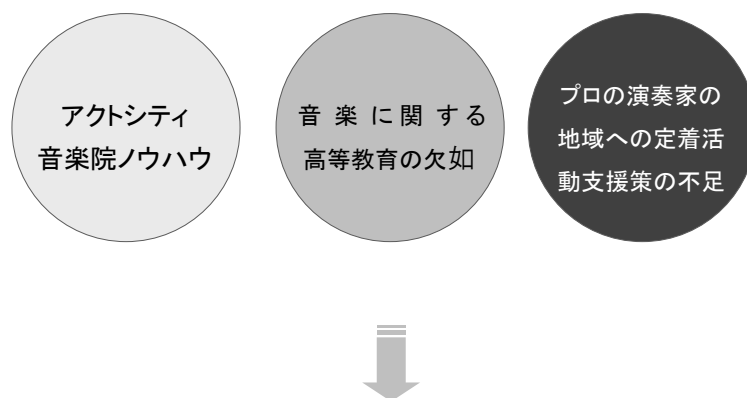


音楽人材の育成について

1 現状と課題

- ①アクトシティ音楽院において管楽器、ピアノのアカデミーを開催し、ハイレベルの演奏者の育成に取り組んでいる。
- ②音楽大学の設置等は実現までのハードルが高い。
- ③吹奏楽は盛んであるが、プロ演奏家の受け皿となる常設のプロオーケストラは存在せず。
- ④音楽分野の創造都市では、アーティスト・イン・レジデンス(音楽家・演奏家等の地域への定着、地元根差した音楽活動の推進)施策を重要視しているが、浜松市ではプロフェッショナルな演奏家の地域での活動を支援するスキームが不足し、高度音楽人材の定着が図りにくい。



【モジュール・メリットの活用】
浜松市だけで解決するのではなく、ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野の音楽資源を有効に活用したスキームを確立する。

たとえば……

・ボローニャ市との連携

ボローニャ音楽院、イモラ音楽院等と連動したピアノ教育

・ハノーバー市との連携

ハノーバー演劇音楽大学と連動したの弦楽器教育

……などの研究

2 事業モデルの参考事例「ハノーバー市との連携による弦楽器アカデミー(案)」

たとえば、モデルケースのひとつとして、ハノーバー市との連携を考えてみた場合

(1)事業目的

課題を克服し、浜松市の音楽文化の高度化を図るために、ユネスコ創造都市ネットワークの音楽分野の各都市が有する音楽高等教育機関と連携した高度音楽人材の育成を図る事業を推進する。加盟都市の協力をいただき各都市の音楽資源を有効に活用することは、本市がユネスコ創造都市ネットワークへの加盟を果たした一つの成果であり実績づくりにもつなげていくことができる。

具体的には加盟都市のうちハノーバー市との連携事業を進める。ハノーバー市は「ハノーバー国際ヴァイオリンコンクール」を3年に一度開催するなど弦楽器に関する国際コンクール事業を実施し、かつ、ハノーバー演劇音楽大学における高等教育機関を有することから、同市との連携事業を進めることにより、本市の課題解決に向けた有効な取り組みが可能になる。

(2)事業内容(案)

①弦楽器アーティスト交流研修事業

専門教育を受け浜松市での演奏会の開催など地域活動実績を有する弦楽器奏者をハノーバー演劇音楽大学等へ派遣する。ハノーバー市での短期研修プログラムにより演奏技術の向上を図ると共にハノーバー市の演奏家たちとの交流を進める。

- 交流研修事業で派遣する弦楽器奏者の条件
 - ・ 専門教育を受けた弦楽器奏者
 - ・ 浜松市においてプロの演奏者としての活動実績を有する者

②弦楽器セミナー開催事業

弦楽器文化の振興と高度な演奏家の育成を目指し、ハノーバー市のノウハウを活用しアクトシティ音楽院で弦楽器に関する人材育成プログラムを実施する。

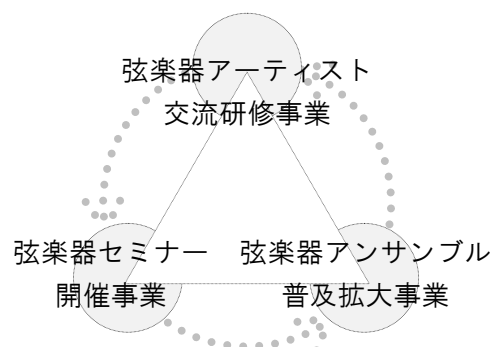
特任講師としてはハノーバー演劇音楽大学等から招聘する。受講生への指導補助やコミュニティ事業における指導者については、アーティスト交流研修事業でハノーバー市へ派遣した弦楽器奏者に担っていただく。

③弦楽器アンサンブル普及拡大事業

弦楽器の魅力が市民に広く知っていただき弦楽合奏ファンの拡大を図るため、弦楽器アンサンブルによる室内合奏のコンサートを実施する。

これにより、市民の弦楽器ファンの拡大と地域に根差したプロフェッショナルな演奏家の活躍の場の拡大を図る。

浜松弦楽器アカデミー開催事業



3 ハノーバーが有する主要な弦楽器教育リソース

(1) ハノーバー音楽演劇大学



1950年にハノーバー演劇学校と州立音楽学校が統合して創立、1978年に博士号を提供する音楽大学として認可。現在、世界55カ国からの留学生500名以上を含め、1,400名以上の学生が同校で学ぶ。音楽教育の伝統を重んじながらも、新しい文化にグローバルなスケールで触れることができる校風で、文化芸術団体やプロジェクト、海外の大学など、数多くの機関と提携。

ヴァイオリン演奏家であり指導者でもある Prof. Krzysztof Wegrzyn はハノーバー国際ヴァイオリンコンクールの芸術監督を務める。現在、南紫音、鈴木愛理らが同大学で学ぶ。なお、同大学の教授としてはこれまでに、ピアノの Prof. Alie Vardi、故 Prof. Karl Kämmerling が浜松国際ピアノコンクール及び浜松国際ピアノアカデミーで、トランペットの Prof. Jeroen Berwaerts が浜松国際管楽器アカデミーで審査又は指導をしている。



《連携の可能性》

- 同大学教授陣を招聘するマスターコースやワークショップの開催
- プロ演奏家またはプロ演奏家を目指す人材の短期留学
- 浜松国際ピアノコンクール優勝者とハノーバー国際ヴァイオリンコンクール優勝者との共演など

(2) NDR(北ドイツ放送)フィルハーモニー管弦楽団



1950年に創立された北ドイツ放送付属の管弦楽団でノーバーを本拠地とする。主なレパートリーはヨーロッパの伝統的な古典派音楽からロマン派音楽。1998年から2009年まで大植英次氏が主席指揮者を務めた。現在、ヴァイオリン奏者の八嶋博人氏をはじめ3人の日本人演奏家が在籍する。2018年5月には“ラ・フォル・ジュルネ”のために来日予定。NDR はほかに、ハンブルクを本拠

地とする NDR 放送交響楽団、合唱団、ビッグバンドを擁する。

《連携の可能性》

- 同楽団演奏家を招聘するマスターコースやワークショップの開催
- 浜松の演奏家をハノーバーでの NDR フィルのワークショップへ派遣
- 浜松国際ピアノコンクール優勝者と NDR フィルとの共演など

(3) ムジクシューレ(Musikschule Hannover)



子どものための公立音楽学校。音楽を楽しむための学校であり、プロ養成を目的とするものではない。講師は非常勤であるが音楽大学を卒業した専門知識を持つ人材を採用。入学試験はなく5歳頃から楽器を習う。古くからドイツ全国にあるシステムだが、ハノーバーでは約15年前から日本企業の子ども音楽教室の指導法を参考として3～6名のグループレッスンを開始。個人レッスンやアンサンブルを行うこともある。公教育との連携、出張レッスンなどのほか、レッスン生への楽器貸与や安価購入の斡旋なども行っている。なお、同国の学校教育では放課後の時間が長く、子どもたちは興味と適性に応じて、音楽やスポーツなどを学ぶ。

《連携の可能性》

- 同学校は地域内の子どもの教育を目的としており講師も非常勤であるため、連携の可能性は低い

4 今後の連携のための検討

① 浜松が目指す人材育成のターゲットは誰か ⇒ 連携相手はどこか

- ・世界に羽ばたくプロ演奏家
- ・地域に根ざし、後進の育成も行う演奏家
- ・音楽都市浜松の将来を担う青少年

② 時期と方法

③ 費用負担